1. 授業の概要(ねらい)

「嗜癖的行動」(addictive behaviors; 行動のアディクション)は、米国精神医学会の診断基準であるDSMの第5版(DSM-5)において、これまでの物質依存(薬物依存)を改め、「物質関連障害および嗜癖性障害群」との分類を設けたことや、WHOのICD-11において新たに"gambling disorder"が加わったこと、さらに、我が国においてカジノ解禁を含む「IR推進法案」が成立したことも相俟って、大きなテーマとなっている。「嗜癖」(アディクション)という用語に明確な科学的定義は存在しないが、この用語が用いられる対象となる行動は、強固かつ過剰な反復行動といえ、この点は、多くの問題行動に共通する特徴でもある。

ここでは文献抄読により、依存の概念や研究法を学び、疾病としての依存症(行動のアディクションを含む)を含め、「強迫」など、類似の行動特性を有する障害についても概観し、なんらかの随伴性により形成維持された行動が「やめられない」状態になるメカニズムを、動物モデルを含め、考察する。さらに、薬物依存の形成や程度に性差がみられることから、上記の点に関する性差についても考察する。

2. 授業の到達目標

「嗜癖」(アディクション)について学修するとともに、「evidence-based」の考え方、方法論を学び、身につける。

3. 成績評価の方法および基準

発表・レポート・質疑内容(合わせて70%)、最終レポート(30%)で評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは文献(英文を含む)などより適宜配布。

参考文献

米国精神医学会 『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』(2013)

WHO ICD-11, 2018 version (<https://icd.who.int/>)

06 Mental, behavioural or neurodevelopmental disorders

5. 準備学修の内容

発表やレポートは、テキスト内容の紹介のみならず、独自の観点からの考察が必要となる。このため、テキストだけではなく、関連文献・情報を精査しておくこと。報道や著作物の内容を鵜呑みにせず、キイとなる事象については必ず「ウラをとる」習慣を身に着けてほしい。これは、「evidence-based」の考え方の一環でもある。

6. その他履修上の注意事項

「嗜癖的行動」の行動特性やその発現・修飾メカニズムを探ることは、いわゆる自助グループや、「治療共同体」の果たす行動学的意味の分析にもつながる。抄読文献は英文も視野に入れており、積極的な参加を期待する。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス、抄読資料配布・割り当て
- 【第2回】 文献抄読・討議
- 【第3回】 文献抄読・討議
- 【第4回】 文献抄読・討議
- 【第5回】 文献抄読・討議
- 【第6回】 文献抄読・討議
- 【第7回】 文献抄読・討議
- 【第8回】 文献抄読・討議
- 【第9回】 文献抄読・討議
- 【第10回】 文献抄読・討議
- 【第11回】 文献抄読・討議
- 【第12回】 文献抄読・討議
- 【第13回】 文献抄読・討議
- 【第14回】 文献抄読・討議
- 【第15回】 総合討論、まとめ